【決勝】

習志野 vs 八千代

習志野は1-5-3-2、八千代は1-4-2-3-1システムでキックオフ。雨上がりのスリッピーなピッチということもあり序盤はお互いにハイサイドをシンプルに狙う展開。

習志野はGKやDFラインからのフィードを、FW⑩中渡瀬、⑪中曽根に配球し、スピード活かした仕掛けから、深い位置でのしかけやロングスローを獲得しながらペースを掴む。対する八千代はGKから丁寧にビルドアップを試みる。⑩石橋や②一木が縦パスを差し込み、関わりながら前進を狙い相手コートでリズムよくパスを繋ごうとする。

2分、左サイド深い位置⑪中曽根の突破から、ペナルティエリアに侵入しラストパスを受けた⑦太田のシュートはポストに阻まれる。立ち上がりは習志野がややペースをつかんだ。10分、八千代のGKへのバックパスに対して習志野⑪中曽根がプレスをかける。すると八千代GKのコントロールが少し乱れ、DFにつけようとしたショートパスが⑪中曽根に当たり、そのままゴールに流れ込む。習志野が先制点を奪った。対する八千代は、慌てずにじっくりボールを動かしながら攻め手を探る。習志野のプレスの位置が少しずつ下がり始めるが、⑨小金谷へ効果的なボールが入らず、習志野DFを崩すことができない。習志野の5バックは背後を取られることが無く、3バック+アンカー④本間が常に八千代の⑨小金谷を監視し隙を見せない。ボールは八千代が握るが、決定的なチャンスが作れないまま前半終了。

後半、前半と同様に八千代がボールを握り、習志野がブロックを作り、跳ね返す展開が続く。八千代は左サイド②一木と⑪三枝のコンビで数的優位を作れるシーンが増え、クロスを上げることができるようになる。また⑨小金谷への鋭い縦パスも少しずつ入るようになり、ゴール前のシーンが前半よりも増えてきた。対する習志野は5バックの距離が少しずつ伸ばされ、CBがサイドに引き出されるシーンが増えたが、中央で⑤石黒④本間③藤本がしっかりと跳ね返し、いい形でシュートを打たせない。また交代選手をうまく使いながら、前線と中盤の陣形をうまく修正し八千代のビルドアップを阻みながらカウンターに出て行き、CK、FK、ロングスローを獲得し八千代のゴールに迫る。すると後半37分、粘り強く守ってカウンターに出た習志野がCKを獲得する。⑥岡田が上げたボールは一度跳ね返されるが、こぼれたボールを途中出場⑳佐藤が蹴り込み、習志野が追加点をあげる。1点を返したい八千代は交代で入れた㉔山内と⑨小金谷へシンプルにフィードする場面を多くし、習志野ゴールに迫ろうとするが、⑤石黒を中心とした習志野DFが崩れることはなく、そのまま試合終了。

両チーム、最後まで自分たちの戦い方を見失わず、やりたいサッカーを貫いた一戦は習志野に軍配が上がった。